

令和8年度入学者選抜

総合型選抜

学校推薦型選抜

小論文

出題の意図／解答例

東京医療保健大学

令和8年度 総合型選抜

医療保健学部看護学科

小論文キーワード「外国人との共生社会」

出題の意図

昨今、高校生が日常的に見聞きする社会での話題に「共生社会」があげられる。そのなかでも、今回は「外国人との共生社会」に焦点をあて、外国人との共生社会の背景（問題1）および共生社会を推進するうえでの課題と方策（問題2・3・4）について、客観的かつ多面的に課題をとらえ、論理的に述べることができるかを評価の視点とした。

〈解答例〉

【問題1】

図1より外国人人口は20歳代および30歳代の割合が高く、外国人全体の半数以上を占めていること、図2より日本の総人口は2010年以降減少しており、人口構成では年少人口および生産年齢人口の割合が低下していることが読み取れる。

これらの情報から、日本では労働力となる人口が減少しており、今後も増加は見込めないため、労働力として外国人が増加しており、特に20～30歳代の外国人が多くなっていることが考えられる。

【問題2】

外国人が困っていることの1つ目は日本語が不自由であり、必要な情報の入手が難しいことである。この負担を軽減するにはやさしい日本語を理解し、意識して使用することが必要である。

2つ目は日本人が外国の文化を十分に理解しておらず、偏見や差別を感じさせていることである。これを解消するには相手への理解を深めるため、外国の言葉や文化、習慣に関心を持つこと、また外国人との交流の場に参加することが必要である。

【問題3】〈解答〉

$$11.6 \div 230.3 \times 100\% = 5.036. \quad 5.0\%$$

【問題4】

グラフから日本における外国人労働者数は2012年から2022年にかけて約2.5倍に増加している。これは少子高齢化による人手不足に対処するため、外国人を重要な労働力として迎え入れている現状を示している。

しかし、労働力としての貢献に比して、生活者としての支援や社会的な受け入れ体制は十分とはいえない。言語の壁、医療や教育情報へのアクセス不足、文化・宗教への理解の欠如などが課題である。こうした状況では、外国人が孤立し、地域社会との摩擦が生じやすくなる。

共生社会の実現には、「受け入れる側」の意識改革と制度整備が欠かせない。具体的には、行政における多言語対応、日本語教育の機会の拡充、地域の多文化理解を進める学習機会の提供が求められる。また、外国人自身が地域活動に参画し、自らの声を届けることができる仕組みづくりも重要である。国籍を問わず、互いを理解し支え合える社会こそ、持続可能な社会である。外国人との共生は日本社会の未来にとって大きな可能性を秘めている。

令和8年度 学校推薦型選抜

医療保健学部

出題の意図

問題1・2では、高校生でも知っている病気の一つである「がん」のうち、ワクチン接種などで身近な「子宮頸がん」をとりあげ、図と説明文の読み取り、根拠に基づき自分の考えを記述するという論理性・表現力を評価の視点とした。

問題3・4は、高校生にとってやはり身近な話題であり、本学での学修でも不可欠な「コミュニケーション」に関する記事を取り上げ、記事の要約と表現ができる力（問題3）と、ふだんの心がけや行動と理由を簡潔に述べることを評価の視点とした（問題4）。

【問題1】

1) 〈解答〉

男性の部位別がん死亡順位と割合

順位	部位別がん	割合(%)
第1位	肺がん	23.9
第2位	大腸がん	12.6
第3位	胃がん	11.4

男性の部位別がん死亡数の総数：221360

女性の部位別がん死亡順位と割合

順位	部位別がん	割合(%)
第1位	大腸がん	15.6
第2位	肺がん	14.2
第3位	膵臓がん	12.6

女性の部位別がん死亡数の総数：161144

2) <評価の視点>

背景要因として 100 字から 150 字以内で次の内容が記載されていること。

男女ともに喫煙や飲酒などの生活習慣、女性はホルモン要因や出産経験、検診受診率など。

3) <評価の視点>

まず、図 3 から 20 歳～24 歳で罹患者が急増していることをとらえ、予防に有効なワクチンの接種率が低い可能性が記述できている。

さらに性行動の低年齢化 (①)、HPV 感染の若年化 (②)、生殖年齢 (24～34 歳) との関係 (③) のいずれかを記述していること。

【問題 2】

<解答>

1) HPV ワクチン接種を接種したことがない割合が多い

順位	生まれ年
第 1 位	2012 年生まれ. 80.5%
第 2 位	2011 年生まれ. 67.8%
第 3 位	2010 年生まれ. 61.0%

HPV ワクチン接種を 1 回以上接種したことがある割合が多い

順位	生まれ年
第 1 位	1997 年生まれ. 67.0%
第 2 位	1998 年生まれ. 63.1%
第 3 位	1999 年生まれ. 59.4%

2) <評価の視点>

図 4 から読み取れたこととして、100 字以内で下記の内容が含まれていること。

- ・社会的背景の影響を受け、世代間で接種率に大きな開きがある
- ・接種年齢を過ぎた年代の中では、特に 2001 年～2003 年生まれの人の接種率が低い
- ・2012 年～2010 年生まれの人の接種率が低い
- ・2008 年生まれより下の世代は、今後、接種率が上昇していくことも期待できる

【問題3】〈評価の視点〉

項目	評価の視点
読解	与えられたテーマや課題文を正しく理解し、文章の要点や筆者の主張を簡潔にまとめることができる。
論理表現	課題文の論理展開に沿って要約文を組み立てられ、求められた字数を満たしている。
客観性	客観性を保ち、自分の意見を混ぜない。

【問題4】〈評価の視点〉

項目	評価の視点
読解	与えられたテーマや課題文を正しく理解することができる。
表現	文章構成がわかりやすく、求められた字数を満たしている。
思考	テーマについて深く考え、自分の意見を構築している。
多様性・協働性	多様な人々と協働することができる。
論理性	自分の意見を、理由を挙げながら適切に説明することができる。

出題の意図

東が丘看護学部のアドミッションポリシーは、小論文によって「医療・保健・福祉等についての記述を通じて、思考力・判断力・表現力の評価を行う」としている。

昨今、生活習慣病の罹患者数が増加し、日本の医療保健に甚大な影響が生じている。これから医療・保健・福祉を学修し、Tomorrow's Nurse となる本学部の入学生として、各自が問題意識をもって現状を把握し考察すべきテーマについての論述を通して、本学部のアドミッションポリシーが求める資質を問うことができると思う。

〈評価の視点〉

【問1】 日本で生活習慣病患者が増加している背景に関する多角的な説明がなされていること。

【問2】 生活習慣病予防に対する取り組みに関して明確に説明できていること。

〈解答例〉

【問1】

日本の高校生は「リアルな友人との関わり方」について、「SNSで知り合った人のほうが本音を伝えやすい」と考える割合は、日本では他の国々と比べてかなり少ない。

また、「友人と直接話すより、SNSを通じたほうが気持ちを伝えやすい」と答えた割合についても、同じく日本は他の国に比べて少なくなっている。

日本の高校生はSNSを通じた関わりよりも、実際に会って話すといったリアルなつながりをより大切にしているように見える。

【問2】

この図から、日本は「時間を管理する能力が低下した」と感じている人の割合が他国に比べて最も高いという特徴がある。「少し低くなった」「非常に低くなった」と回答した人は合計40.5%で、米国(38.4%)、韓国(28.8%)、中国(20.5%)と比べても高い割合です。一方で、「非常に高くなった」「少し高くなった」と答えた人は20.2%と、他国と比べて最も低く、特に中国

(41.4%)との差がみられる。また、「変わらない」との回答は、他国と大きな差はない。これらの結果から、日本ではSNSの使用が時間管理に対して、他国では一定の割合で肯定的に捉えられているのに対し、日本ではより否定的な傾向の特徴があった。

【問3】

スマートフォンやパソコンでSNSでないとできない勉強の課題もある。しかし、スマホには、どれだけ使ったかを記録する機能があり。これを使って、自分がどれくらいSNSに時間を使っているかを知ることができる。1日に使う時間を決めて、時間を超えたらやめる習慣をつける。

メッセージを必要のない通知はオフにしたり、通知を見る時間を決めたり、勉強中はSNSを見ない、SNSは食事の時間や寝る前には使わないなど、ルールをつくる。スマホのタイマーやアプリの時間制限機能を使う。自分の意志だけでなく、スマホの機能を見直して使うことで、効果的に時間を管理できると考える。

千葉看護学部

【問1】 知識・技能のうち、図の読解力、基礎的計算能力を問う。

〈解答〉

① : B ② : 17 ③ : 14 ④ : $54.97/35.47 = 1.55$ (倍)

【問2】 知識・技能のうち、表の読解力、データを比較しての判断力を問う。

〈解答〉

1. ○ 2. ○ 3. ×

【問3】 知識・技能のうち、記載された文章から事実である部分を判別し、これを根拠として判断する力、および文章で表現する能力を問う。

〈解答例〉

ICTを活用する利点は、技能の習得や学習意欲の向上に直結する点である。例えば、生徒Aのように自分の跳び箱の映像を確認することで、踏み込み位置のずれといった具体的な課題に気付き、修正して成功体験につなげることができる。また、動画をスローや拡大で繰り返し確認できるため、正しい動きを理解しやすくなる。さらに、生徒Bが述べているように、バスケットボールの授業で映像に書き込みながら作戦を立てたり姿勢を直したりすることで、仲間と意見を交わしながら主体的に学ぶことができる。教師から一方的に教わるのではなく、自分で発見し考える学びが可能になる点がICT活用の大きな利点である。

【問4】 知識・技能のうち、記載された文章から事実である部分を判別し、これを根拠として判断する力、創造する力、相手の事情・立場を想像する力、および文章で表現する能力を問う。

〈解答例〉

中学生に創作ダンスを体験してもらう活動の中で、私はICTの活用方法を担当します。当日はタブレット二台と大型モニターを使います。まず一回目に自由に踊ってもらい、その様子をタブレットで撮影します。その映像をモニターに映して見返し、良かった点や工夫できる点を話し合います。二回目は意見を生かして踊り直し、変化を確かめる流れにします。自分の姿を客観的に見ることで普段気づかない動きに気づき、仲間から意見をもらうことで表現を豊かにできると思います。こうしてICTを使うことで「もっと工夫したい」という気持ち生まれ、自己表現の楽しさを実感できます。

一方で、撮影には注意が必要です。動画には顔などの個人情報が含まれるため、外部に出したりSNSに投稿したりしてはいけません。そこで、撮影前に本人の了解をとり、映像はイベント中だけ利用し終了後に削除すること、端末は先生が管理することを徹底します。また、映りたくない人には無理に参加を求めないようにすることで安心して活動でき、ICTの利点を安全に生かすことができます。

和歌山看護学部

問題 1

〈出題の意図〉

問 1 高校までに学ぶ基礎的な計算能力を問うものとした。

〈解答〉

- ① 1,306,000 ② 3.5 ③ 954,500 ④ 572,000

〈出題の意図〉

問 2 文章読解力および文章力を問うものとした。

1) 文章を理解した上で正しい漢字を書くことができる能力を問うものとした。

〈解答〉

- ① 見方 ② 味方

〈出題の意図〉

- 2) 文章を理解し、自分の考えを表現する能力を問うものとした。看護職を目指す者として成長していくためにも、読書をすることや主体的に学ぶ姿勢をもつことは大変重要なことである。そこで、アドミッションポリシーの「何事にも興味をもち主体的に学ぶ能力」と看護職を目指す者として「人々の健康を担う決意と高い志」があるか確認できるような問題とした。

〈評価の視点〉

- ・見方と味方共に増やす大切さについて、文章で説明されている内容を適切に抽出し、表現できていること。
- ・看護職を目指す者として、見方と味方共に増やす大切さについて、理由が適切に記載され、結論に至るまでのプロセスが整理されており、自分の考えを述べるができること。

〈出題の意図〉

- 問題 2** 人を対象とする医療職者を志す者は、他者の心身の健康を支えるにあたり、その気持ちに寄り添う共感に極めて重要となる。そのため、その共感を主題とした問題を選択し、アドミッションポリシーの「コミュニケーション能力を備える」「豊かな人間性と倫理観をもつ」人材であるかを見極めたいと考えた。

文章統解力および文章力を問うものとした。また、共感を主題とすることで、アドミッションポリシーの「地域社会に関心をもつ」「豊かな人間性」「人々の健康を担う決意と高い志」があるか確認できるような問題とした。

〈評価の視点〉

- ・出題内容を的確に捉え、解答を的確に記載している。
- ・自分の言葉で主張・理由が適切に記載され、結論に至るまでのプロセスが整理されていて分かりやすい。